

文字をとりもどし、 ともにまなびあうよるこびを

文字を学ぶ喜びをともに よみかき交流会

よみかき交流会が1月28日、29日、白浜町シーモアでおこなわれ、今年も各識字学級から指導者・識字生74人、県・行政からの参加者を合わせると100人をこえる交流会となった。



あいさつする楠義隆県生涯学習課局長

会場の壁際には、識字教室で使った1年間の学習資料や作品展示をし、スタートした。

2016年度よみかき交流会の主催者を代表して、楠義隆・県生涯学習課局長から「文字をつうじて交流し、2日間の学習機会をおおいに役立ててほしい」とあいさつされた。今年も岩橋識字学級が看板作成を手掛けてくれた。体験発表「識字によって」を橋本識字教室の森中邦子さんが



体験発表する森中邦子さん



善明寺識字学級の紙芝居

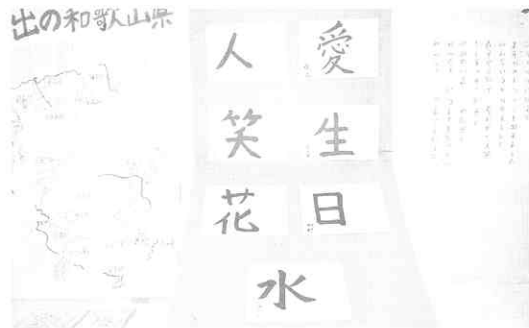


実践発表する宮本睦さん

ら発表がされ、次に実践発表「私と識字学級」を那賀識字教室の宮本睦さんからおこなわれた。その後展示している作品を見学しながら、5つの分散会にわかれた。分散会では、みんな各教室でおこなったことなど活発な意見交換がおこなわれていた。夕食会場では、食事をしながら恒例のカラオケ大会ならぬ交流会がはじめられた。みんな元気に歌をうたって踊りも披露うにぎやかに時間がすす



分散会のようす



自身の思いの文字を記した

ら、5つの分散会にわかれた。分散会では、みんな各教室でおこなったことなど活発な意見交換がおこなわれていた。夕食会場では、食事をしながら恒例のカラオケ大会ならぬ交流会がはじめられた。みんな元気に歌をうたって踊りも披露うにぎやかに時間がすすんでいった。次の日は各分散会の司会者から報告がおこなわれた。最後の研修では中山祐二・奈良市人権教育推進協議会・事務局から「これでよいということはない」とし、識字に関わってきたこれまでの実践と今後の識字学級の展望につ



分散会のようす



分散会のようす

て話された。「のびっさん」との愛称で子どもたちとかわって来た同推教員だった中山さんは、教え、教えられ共に学びあう姿勢を大切に、部落差別の現実に深く学び人権啓発をすすめていくといった内容で講演をおこなった。また「母は闘わん」を少しアレンジしみんなと手拍子で歌って閉会をむかえ、「来年また白浜で」を合言葉に2016年度よみかき交流会を終えた。

連載 (4) 後 没 50年

解放の父・松本治一郎 ⑦

連載の7回目となる。昭和十一年、一九三六年の年頭に水平新聞に全国委員長としての松本治一郎の決意が載せられている。「世の中は、もうどうにもならぬようになってきておりま

す。言い換えると、今までの通りの政治のやり方や仕組みや今の支配階級はどうにもやっていけないところまで行き詰ってあります。私たちがお互い

はすべての被圧迫労働大衆と固く固く手を組んで、治一郎は、全国委員長として部落の生活改善に多くの力を注いできた。その一環として議会での取り組みを強化して、組織内議員の選出や他の候補の応援なども行ってきた。加えて日に日に強まるファシズムの台頭に危機感を覚えている。その年の衆議院選挙に福岡1区から立候補したのがあった。結果、第3位で当選を果たした。

その時の思いを後に、井本麟之は「解放運動にとつて実に大きな成果であったと思います。それまで私たちの代表者は、国会に一人もいませんでした。感極まって、万歳を叫び、涙を流して喜びました」と語っている。さて、その二週間後にあの2・26事件が起き、軍部の発言力がますます強まってきた、そんな世

(以下次号へ)